

平成29年度
シラバス
〔1学年〕



北海道枝幸高等学校

シラバス目次

1 学年必修（12科目）

国語総合	2ページ
地理 A	4ページ
政治・経済	6ページ
数学 I	8ページ
数学 A	10ページ
化学基礎	12ページ
体育	14ページ
保健	16ページ
音楽 I	18ページ
コミュニケーション英語 I	20ページ
家庭総合	22ページ
社会と情報	24ページ

平成29年度 学年別教育課程表

	1 年	2 年	3 年								
1	国語総合	現代文 B	現代文 B								
2		古典 A	世界史 B		地理 B						
3											
4		世界史 A	倫 理								
5											
6	地理 A	体 育									
7	政治・経済										
8	数学 I	数学 II	コミュニケーション英語 III								
9		数学 A					数学 B				
10	化学基礎		物理基礎	<table border="1"> <tr> <td>選択 1</td> <td>化学研究</td> <td>生涯スポーツ</td> <td>英語講読</td> <td>情報処理</td> </tr> </table>				選択 1	化学研究	生涯スポーツ	英語講読
選択 1		化学研究	生涯スポーツ					英語講読	情報処理		
11	体育	生物基礎	<table border="1"> <tr> <td>選択 2</td> <td>社会教養</td> <td>物理研究</td> <td>生物研究</td> <td>簿記(*5)</td> </tr> </table>				選択 2	社会教養	物理研究	生物研究	簿記(*5)
選択 2		社会教養					物理研究	生物研究	簿記(*5)		
12	保健	体育									
13		音楽 I	保健								
14	コミュニケーション英語 I		コミュニケーション英語 II	選択 3	国語一般		科学と人間生活	子どもの発達と保育			
15		家庭総合			英語表現 I	選択 4	国語表現	数学Ⅲ(*1)	数学研究(*3)	音楽Ⅱ	
16	社会と情報		家庭総合	選択 5			地理研究	数学Ⅲ(*2)	数学研究(*4)	簿記(*6)	
17		総合			総合	総合					
18	LHR	LHR	LHR								

「数学Ⅲ」は(*1) 3単位、(*2) 2単位の併せて5単位を履修
「数学研究」は(*3) 3単位、(*4) 2単位の併せて5単位を履修
「簿記」は(*5) 3単位、(*6) 2単位の併せて5単位を履修

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	国語総合	1	必修	4	

使用教科書	東京書籍「新編国語総合」	使用副教材	東京書籍「新編国語総合 学習課題ノート」 第一学習社「意味から学ぶ頻出漢字 300」 桐原書店「基礎から解釈へ 新しい古典文法」 桐原書店「基礎から解釈へ 新しい古典文法 演習ノート」 尚文出版「シンプルスタイルシリーズ 古文単語 301」 浜島書店「例文による漢文の習得」 浜島書店「漢文基本ノート」
-------	--------------	-------	---

科目の目標	国語を的確に表現、理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
-------	---

学習の到達目標	1 文章についての基礎的な知識を用いて、適切な文章が書ける。 2 自分の意見や考えについて、根拠を持って説明することができる。 3 漢字と句語について知識を深め、適切に使用・活用ができる。
---------	--

学習の進め方	・表現上の特色をとらえ、国語の知識を学ぶ。 ・自分の考えや意見を持ち、他者と話し合いながら答えを導く。 ・様々な意見や考えを踏まえた上でさらに自己の考えを深め、文章にする。
--------	--

学習の留意点	・授業規律をしっかり守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるような板書をし、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動などには特に真剣に取り組むこと。
--------	--

観点別	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
比重	20%	20%	20%	20%	20%
評価方法	○関心・意欲・態度…課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○話す・聞く能力…日々の授業での取組で評価する。 ○書く能力…定期考査や日々の授業での取組、ワークシート等での取組で評価する。 ○読む能力…日々の授業での取組で評価する。 ○知識・理解…定期考査や小テストなどで評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査					
														前期		後期			
														中間	期末	中間	期末		
文章の基本																			
聞いて記録する																			
随想 待つということ	106																		
評論 未来をつくる想像力	46																		
小説 ほおずきの花束	91																		
古文入門 兎のそら寝	218																		
随筆 徒然草（亀山殿の御池に）	238																		
随想 枕草子（うつくしきもの）	246																		
物語 伊勢物語（芥川）	270																		
漢文入門 訓読の基本	288																		
漢文入門 故事	294																		
唐詩（春暁、峨眉山月歌など）	302																		
小説 羅生門	76																		

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準					備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	e	
漢字・語句に関するテスト	通年	毎時間、冒頭で漢字・語句に関するテストを実施する。						○
文章の基本	6	文章を書く上での基本的な事項(原稿用紙の使い方、表記上のルールなど)について学び、ルールに沿って簡単な文章を作成する。			○			○
聞いて記録する	4	話者の話している内容についてその要旨を的確に捉えて記録をし、他者に正確に伝えられるようにまとめる。		○	○			
随想 待つということ	6	筆者の意見を踏まえて「大人」というものについて考え、自己の考えや意見を発表する。	○	○		○		
評論 未来をつくる想像力	12	筆者が問題としていることとその答えとして、それを的確に読み取り、その内容について考察し、発表する。 グループ毎に発表の後、各自でその内容についてさらに考察し、意見交換をする。	○	○		○		
小説 ほおずきの花束	16	登場人物について様々な観点から考察し、根拠を持って説明する。	○	○		○		
古文入門 児のそら寝	14	歴史的仮名づかいについて学び、短い文章の音読をする。 用言について学ぶ。	○			○	○	
随筆 徒然草(亀山殿の御池に)	6	現代にも通じる考え方に触れ、理解を深める。 用言を確認する。	○			○	○	
随想 枕草子(うつくしきもの)	8	現代にも通じる考え方に触れ、理解を深める。 用言を確認する。	○			○	○	
物語 伊勢物語(芥川)	10	現代との考え方の違いに触れ、古典文学の面白さに触れる。 用言を確認する。	○			○	○	
漢文入門 訓読の基本	16	返り点や書き下し文など、漢文の基本を身に付ける。	○				○	
漢文入門 故事	8	故事成語の成り立ちについて理解し、本来の意味と現在の意味との違いについて考察する。	○			○	○	
唐詩(春暁、峨眉山月歌など)	12	唐詩の特徴的な形式について理解し、内容について考察する。	○			○	○	
小説 羅生門	22	設定を正確に読み取り、現代にこの作品を読む意味について考察する。	○	○	○	○		

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 話す・聞く能力 c 書く能力 d 読む能力 e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
地理歴史科	地理 A	1	必修	2	

使用教科書	東京書籍「地理 A」 帝国書院「地歴高等地図-現代世界とその歴史的背景-」	使用副教材	とうほう「フォトグラフィア地理図説」		
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学習の到達目標	世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付ける。				
学習の進め方	現代世界の特色と諸課題を地理的に学ぶ。地球規模や地域規模での考察を意識し、課題を探究する学習の中で地図等を活用しながら事象を説明したり、論述したりする学習を行う。分野の内容や進度等、状況に応じてプリント・資料配布で授業に代える場合もある。				
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明が分からない時や、漢字が読めない時など、困った場合は遠慮せずに質問すること。分からないままにしておくことは、授業についていけなくなる原因になる。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	地理的事象から課題を見出し、それを地域性・歴史的背景などの関連を踏まえて多面的・多角的に考察・判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ることができる。	地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
	比重	10%	30%	10%	50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ワークシートなどでの取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査					
															前期		後期		
															中間	期末	中間	期末	
第1編 現代世界の特徴と動向																			
第1章 地球儀や地図からとらえる世界	6																		
第2章 結びつく現代世界	16																		
第2編 世界の生活・文化の多様性																			
第1章 世界的視野から見た自然環境と文化	32																		
第2章 諸地域の生活・文化と環境	66																		
1 東アジアの生活・文化と環境	66																		
2 東南アジアの生活・文化と環境	78																		
3 南アジアの生活・文化と環境	84																		
4 西アジア・北アフリカの生活・文化と環境	90																		
5 アフリカ中・南部の生活・文化と環境	96																		
6 ヨーロッパの生活・文化と環境	100																		
7 ロシアとその周辺諸国の生活・文化と環境	106																		
8 北アメリカの生活・文化と環境	110																		
9 中部・南アメリカの生活・文化と環境	116																		
10 オセアニアの生活・文化と環境	122																		
第3編 深刻化する地球的課題とその解決策																			
第1章 地図で読み解く地球的課題	132																		
第2章 様々な地球的課題	134																		
第3章 持続可能な社会の実現を目指して	154																		
第4編 身近な地域と地球的課題																			
第1章 身近な地域と地図	162																		
第2章 自然環境と防災	172																		
第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	192																		

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
第1編第1章 「現代世界の特徴と動向」 「地球儀や地図からとらえる世界」 1 地球儀と世界地図からとらえる地球 2 日本の位置と領域	2	球体としての地球の姿を把握する。 国家の概念、領土問題を考察する。	○	○		○	
第1編第2章 「結びつく現代世界」 1 世界の国家群 2 貿易で結びつく世界 3 交通・通信の発達と世界の一体化 4 観光を軸とした国際的な人々の移動	4	国際情勢との関わりから世界を考察する。 経済のグローバル化から世界を考察する。 一体化する現代世界を考察する。 観光を軸に現代世界を考察する。		○	○	○	日本の貿易構造の変化を示すグラフを見て、わかることをまとめる。 図や表を見て、観光客の国際移動の傾向と各国の訪問先の特徴をまとめる。
第2編第1章 「世界の生活・文化の多様性」 「世界的視野から見た自然環境と文化」 1 生活の舞台としての地形 2 生活の舞台としての気候 3 生活の様式としての文化	8	諸地形の特徴について考察する。 気候の違いと要因を考察する。 文化の多様性について理解する。	○	○	○	○	自分が住んでいる地域の過去の地震、活断層、将来への備えについて、調べてまとめる。 同一緯度上の他都市に比べ、東京の降水量が多い理由を説明する。
第2編第2章 「諸地域の生活・文化と環境」 1 東アジアの生活・文化と環境 2 東南アジアの生活・文化と環境 3 南アジアの生活・文化と環境 4 西アジア・北アフリカの生活・文化と環境 5 アフリカ中・南部の生活・文化と環境 6 ヨーロッパの生活・文化と環境 7 ロシアとその周辺諸国の生活・文化と環境 8 北アメリカの生活・文化と環境 9 中部・南アメリカの生活・文化と環境 10 オセアニアの生活・文化と環境	29	東アジアの地理的特徴を考察する。 東南アジアの地理的特徴を考察する。 南アジアの地理的特徴を考察する。 西アジアの地理的特徴を考察する。 アフリカの地理的特徴を考察する。 ヨーロッパの地理的特徴を考察する。 ロシアの地理的特徴を考察する。 北アメリカの地理的特徴を考察する。 中南アメリカの地理的特徴を考察する。 オセアニアの地理的特徴を考察する。		○	○	○	それぞれの地域の現在の動向、抱えている課題について、多面的・多角的に考察する。
第3編第1章 「深刻化する地球的課題とその解決策」 「地図で読み解く地球的課題」	1	地球的課題の現状を読み解いていく。	○	○	○		地図などの資料を用いて地球的課題の現状やメカニズムについて読み解いていく。
第3編第2章 「さまざまな地球的課題」 1 世界の資源・エネルギー問題—資源の枯渇の危機 2 世界の人口問題—どれだけの人が地球に住めるのか 3 世界の食料問題—飽食と飢餓が同居するアンバランスな世界 4 世界の都市問題—人々は快適な都市をつくれるか 5 世界の環境問題—どのようにして地球環境を保全するか	10	エネルギー消費の地域差を大観する。 人口の現状を地球的視野で大観する。 飽食と飢餓の問題を追究・考察する。 都市問題の現状と解決策を考察する。 国際協力の現状と課題を考察する。		○	○		エネルギー利用の歴史の変遷を踏まえ、エネルギー消費の地域差とその背景について地球的視野から大観する。 人口分布と人口増加の現状について地球的視野から大観する。 食料の供給・生産・流通における地域差を地球的視野から大観する。
第3編第3章 「持続可能な社会の実現をめざして」 1 地球的課題をめぐる国際協力 2 地球的課題へ向けての日本の取組 3 持続可能な社会の実現へ向けて	3	持続可能な社会実現へ向けての具体的な取組について考察する。	○	○		○	持続可能な社会を実現するための具体的な取組について考察する。
第4編第1章 「身近な地域と地理的課題」 「身近な地域と地図」 1 さまざまな地図とその果たす役割 2 地形図から読み取る身近な地域 3 主題図の作成	3	地図の種類・表現を理解する。 地形図の読図方法を習得する。 統計資料をもとに事象を考察する。	○	○	○	○	地図にはその目的に応じて、さまざまな種類・表現のものがあることを理解する。
第4編第2章 「自然環境と防災」 1 日本列島の自然環境と自然災害 2 日本列島の自然災害と防災	7	日本列島の自然環境を把握する。 日本列島での自然災害を考察する。	○	○	○	○	地形と気候の両面から日本列島の自然環境の特性を把握する。
第4編第3章 「生活圏の地理的な諸課題と地域調査」 1 地域の課題を調べる—地域調査の実施 2 地域調査の事例 3 地域の課題に取組む	3	地域調査の一連の流れを把握する。 地域の課題を取上げ、取組を理解する。 持続可能な地域社会の意義を認識する。	○	○	○	○	身近な地域の諸課題を見出す方法、野外調査を中心とした地域調査の一連の流れについて把握する。

評価規準：a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
公民	政治・経済	1	必修	2	

使用教科書	実教出版「最新政治・経済」	使用副教材	浜島書店「最新図説政経」		
科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習の到達目標	社会的事象について、客観的な理解を深めるとともに、それぞれの事象に対して多面的・多角的な考察ができる力を養成する。				
学習の進め方	教科書、資料、プリントを使い、重要事項を中心に講義を進めていきます。話し合いやグループワーク等を通して自分の考えをまとめたり発言したりする機会もあります。				
学習の留意点	授業後に効果的な復習ができるように、授業中に板書されたもののみならず、必要な知識等を積極的にノートにまとめる作業を意識し取り組むこと。常に理解しようとする積極的な意識を持つこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決のありかたについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。授業における知識や情報を的確にまとめ、学習に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
	比重	15%	15%	10%	60%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢などをレポートやノートテイキング、日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ノートやワークシート等での取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
第1編 現代の政治																	
1章 現代国家と民主政治	8																
2章 日本国憲法と基本的人権	16																
3章 日本の政治制度と政治参加																	
1 政治機構と国会	32																
2 内閣と行政機能の拡大	34																
3 公正な裁判の保障	36																
4 地方自治と住民福祉	40																
5 政党政治	42																
6 選挙制度	44																
7 世論と政治参加	46																
4章 現代の国際政治																	
1 国際社会と国際法	48																
2 国際社会の変化	50																
3 国際連合と国際協力	52																
4 第二次世界大戦後の国際政治	54																
5 冷戦終結後の国際政治	56																
6 軍拡競争から軍縮へ	58																
5章 日本の平和主義と国際平和	62																
第2編 現代の経済																	
1章 経済社会の変容	72																
2章 現代経済のしくみ																	
1 経済主体と市場の働き	76																
2 企業の役割	80																
3 国民所得	84																
4 経済成長と国民の福祉	86																
5 金融の役割	88																
6 日本銀行の役割	90																
7 財政の役割と租税	92																
8 日本の財政の課題																	
3章 現代の日本経済と福祉の向上	96																
4章 現代の国際経済																	
1 貿易と国際収支	122																
2 外国為替市場の仕組み	124																
3 第二次世界大戦後の国際経済	126																
4 国際経済の動向	128																
5 発展途上国の諸問題	134																

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
第1編 現代の政治 1章 現代国家と民主政治 1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 民主政治のしくみと課題 4 世界のおもな政治制度	4	国内政治や国際政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身に付けさせる。また、人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発展について理解させる。	○	○	○	○	
2章 日本国憲法と基本的人権 1 日本国憲法の成立 2 日本国憲法の基本原則 3 自由に生きる権利(1) 4 自由に生きる権利(2) 5 平等に生きる権利 6 社会権と参政権・請求権 7 新しい人権 8 人権の広がりと公共の福祉	8	日本国憲法の成立過程をふまえ、憲法の三大原則を把握させる。また、日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	○	○	○	○	授業の進め方や状況により、判例をプリントを用いてまとめる。
3章 日本の政治制度と政治参加 1 政治機構と国会 2 内閣と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治 6 選挙制度 7 世論と政治参加	12	国会、内閣、裁判所さらには地方自治など日本の統治機構に関する理解を深め、またその課題について考察させる。	○	○	○	○	18歳選挙権について触れ、政治に参加する意義を理解し、政治への関心を向上させる。
4章 現代の国際政治 1 国際社会と国際法 2 国際社会の変化 3 国際連合と国際協力 4 第二次世界大戦後の国際政治 5 冷戦終結後の国際政治 6 軍拡競争から軍縮へ	9	国際社会や国際法に関する基本的な理解を深め、国連をはじめ国際機関の役割について考えさせる。また、戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争や軍縮問題、難民問題などを理解させる。	○	○	○	○	
5章 日本の平和主義と国際平和 1 平和主義と自衛隊 2 日米安全保障体制の変化 3 21世紀の平和主義 4 日本の外交と国際社会での役割	8	日本国憲法における平和主義の意義と冷戦終結後の日本の安全政策の在り方について考えさせる。	○	○	○	○	
第2編 現代の経済 1章 経済社会の変容 1 資本主義経済の成立と発展 2 現代の資本主義経済	3	資本主義や社会主義という経済体制の特質を理解させ、その変容を概観する。	○	○	○	○	進度や状況によってプリント等を用いてまとめる。
2章 現代経済のしくみ 1 経済主体と市場の動き 2 企業的作用 3 国民所得 4 経済成長と国民の福祉 5 金融の役割 6 日本銀行の役割 7 財政の役割と租税 8 日本の財政の課題	10	市場のはたらきや国民所得、景気変動など経済の基本的な事柄に対する理解を深めさせるとともに、バブル崩壊と金融、財政の課題などを理解させ、租税の意義について考えさせる。	○	○	○	○	進度や状況によってプリント等を用いてまとめる。
3章 現代の日本経済と福祉の向上 1 戦後復興から高度経済成長へ 2 安定成長からバブル経済へ 3 転機にたつ日本経済 4 中小企業と農業 5 消費者問題 6 公害防止と環境保全 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちの労働問題 9 社会保障の役割	8	バブル期から現状に至る日本経済の流れを追い、経済成長や景気変動、金融・財政政策について理解させる。また、公害や労働関係、社会保障といった日本経済が直面する課題について理解し、今後の展望について考察させる。	○	○	○	○	進度や状況によってプリント等を用いてまとめる。
4章 現代の国際経済 1 貿易と国際収支 2 外国為替市場のしくみ 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 国際経済の動向(1) 5 国際経済の動向(2) 6 発展途上国の諸問題 7 経済協力と日本の役割	8	貿易の意義や国際収支、為替相場のしくみといった国際経済の基本的な事項から、戦後の国際経済の流れを踏まえ地域統合や経済摩擦、南北問題など国際経済を取り巻く課題を理解させる。	○	○	○	○	進度や状況によってプリント等を用いてまとめる。

評価規準：a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学 I	1	必修	3	

使用教科書	数研出版「最新 数学 I」	使用副教材	数研出版「パラレルノート数学 I + A」
-------	---------------	-------	-----------------------

科目の目標	方程式と不等式、二次関数、三角比およびデータの分析について理解し、的確に活用することができる。
-------	---

学習の到達目標	1 高校数学における基礎的な知識や技能を身に付け、活用することができる。 2 世の中で見られる事象を数学的に考察し処理することができる。 3 自分の考えを論理的に組み立て、わかりやすく表現することができる。
---------	---

学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での既習事項についての復習と並行して進める。 (説明やまとめの後に、問題を演習して考え方や解き方を身に付ける) ・予習は、教科書を使用し、次回の授業で行う単元の、例題や練習問題に自主的に取り組んでみること。 ・復習は、ノートを見て授業の内容やまとめを確認し、例題や問題を解きなおすとよい。
--------	--

学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・予習、復習を怠らないこと。わからないことは積極的に質問して理解しようとする姿勢で臨むこと。 ・課題は必ず提出すること。 ・自ら学ぶ意欲を持ち、努力を怠らないこと。 ・「集合と命題」、「データの分析」の一部については講習や添削指導で扱う。 ・数学 I と数学 A は時期を分け、集中的に実施する。 ・数学は習熟度別にクラスを分けて授業を行い、それぞれの進路を考慮した学習をする。
--------	--

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的・基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現・処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○数学的な見方や考え方・・・各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解・・・各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
													前期		後期			
													中間	期末	中間	期末		
中学校の内容の確認	5																	
数と式 (数と式)	10																	
数と式 (1次不等式)	36																	
数と式 (集合と命題)	48																	
2次関数 (関数とグラフ)	64																	
2次関数 (方程式と不等式)	88																	
図形と計量 (三角比)	102																	
図形と計量 (正弦定理・余弦定理)	120																	
データの分析	134																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
中学校の復習						
第1章 数と式 第1節 数と式 1. 整式 2. 整式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解・練習問題 7. 実数 8. 根号を含む式の計算・練習問題・発展	3 1 2 2 2 2 3 8	単項式や多項式、整式、次数、係数、項について理解している。 整式の加法・減法は、同類項をまとめることによってできることを理解している。 展開の公式を用いて、式を展開することができる。 おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。 式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。 今まで学習してきた自然数、整数の体系について整理し考察しようとする。 平方根の意味・性質を理解している。2重根号を簡単な式にすることについて考察できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
第2節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の応用・練習問題 第3節 集合と命題 14. 集合と部分集合 15. 共通部分、和集合、補集合 16. 命題と集合 17. 命題と証明、研究・練習問題・問題	1 1 1 1 2 2 3 4	不等号の違いを考察しようとする。 不等式の性質を、数直線と対応させて理解しようとする。 不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。 連立不等式の解を、数直線を用いて表示し、解を求めることができる。 身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。 集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。 命題や条件の意味を理解している。 対偶や背理法を用いて証明できる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数 2. 関数とグラフ 3. $y=ax^2$ のグラフ 4. $y=ax^2+q$ のグラフ 5. $y=a(x-p)^2$ のグラフ 6. $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ 7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ、研究 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定 練習問題、研究 第2節 2次方程式と2次不等式 10. 2次関数のグラフとx軸の共有点 11. 2次不等式 12. 2次不等式の応用・練習問題	1 1 1 1 1 1 2 3 2 3 3 3 3 5	日常生活に見られる具体例から関数を見つけようとする。 関数が与えられたとき、そのグラフを書こうとする。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 2次関数 $y=ax^2+q$ のグラフの特徴を考察することができる。 2次関数 $y=a(x-p)^2$ のグラフの特徴を考察することができる。 2次関数 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフの特徴を考察することができる。 $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくためには、 $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形する必要があることを理解している。 2次関数が最大値または最小値をもつことを理解しようとする。 2次関数の決定において、適した2次関数の式の形を使うことができる。 連立3元1次方程式の解き方を理解している。 2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標を求めることができる。 2次不等式の解法を考えようとする。 身近な問題を、2次不等式を用いて解決しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
第3章 図形と計量 第1節 三角比 1. 鋭角の三角比 2. 三角比の応用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張 5. 三角比が与えられたときの角・練習問題 第2節 正弦定理・余弦定理 6. 正弦定理 7. 余弦定理 8. 三角形の面積 9. 図形の計量・練習問題、発展	2 1 2 1 3 3 3 4	三角比は、直角三角形の辺の比であることを理解している。 直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。 $\sin 2\theta + \cos 2\theta = 1$ を三平方の定理として、とらえることができる。 座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。 θ の三角比が与えられたときに θ を求める際、図を積極的に利用しようとする。 正弦定理の図形的意味を考察する。 余弦定理の図形的意味を考察する。 2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。 四角形を対角線で2つの三角形に分割して、面積を求めることができる。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
第4章 データの分析 1. データの代表値 2. データの散らばり 3. 四分位範囲 4. データの相関 5. 相関係数・練習問題	2 4 2 2 6	身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。 四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。 散布図、相関表を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 数学的な見方や考え方 c 数学的な技能 d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学A	1	必修	2	

使用教科書	数研出版「最新 数学A」	使用副教材	数研出版「パラレルノート数学I+A」
-------	--------------	-------	--------------------

科目の目標	場合の数と確率、図形や整数の性質を知り、数学的な見方や考え方を身に付ける。
-------	---------------------------------------

学習の到達目標	1 高校数学における基礎的な知識や技能を身に付け、活用することができる。 2 世の中で見られる事象を数学的に考察し処理することができる。 3 自分の考えを論理的に組み立て、わかりやすく表現することができる。
---------	---

学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での既習事項についての復習と並行して進める。(説明やまとめの後に、問題を演習して考え方や解き方を身に付ける) ・予習は、教科書を使用し、次回の授業で行う単元の、例題や練習問題に自主的に取り組んでみること。 ・復習は、ノートを見て授業の内容やまとめを確認し、例題や問題を解きなおすとよい。
--------	---

学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・予習、復習を怠らないこと。わからないことは積極的に質問して理解しようとする姿勢で臨むこと。 ・課題は必ず提出すること。 ・自ら学ぶ意欲を持ち、努力を怠らないこと。 ・「約数と倍数」については講習や添削指導で扱う。 ・数学Iと数学Aは時期を分け、集中的に実施する。 ・数学は習熟度別にクラスを分けて授業を行い、それぞれの進路を考慮した学習をする。
--------	--

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的・基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現・処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業中の発言、課題に対する取り組みなど、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方・・・各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解・・・各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
場合の数と確率 (場合の数)	6																
場合の数と確率 (確率)	30																
図形の性質	52																
整数の性質 (約数と倍数)	100																

単元名と単元内容	配当 時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
第1章 場合の数と確率						
第1節 場合の数						
1 集合	1	集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。			○	
2 集合の要素の個数	2	ベン図で集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。		○		
3 樹形図、和の法則	2	場合の数について樹形図を利用し、もれなく重複なく数えることができる。				○
4 積の法則	2	積の法則を用いて、場合の数を求めることができる。			○	○
5 順列	3	積の法則から順列の公式を考察することができる。		○		
6 円順列と重複順列	3	順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。	○			
7 組合せ・練習問題	4	順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。		○		
第2節 確率						
8 確率の意味	1	身近な試行について実験などを通じて確率に興味・関心をもつ。	○			
9 確率の計算	2	「同様に確からしい」という概念を数量的にとらえることができる。		○		
10 確率の基本的性質	2	確率の基本的性質を集合と関連づけて考察しようとする。	○			
11 和事象の確率	2	確率の加法定理を用いて、和事象の確率を求めることができる。			○	
12 余事象の確率	2	補集合をもとに、余事象を考察することができる。		○	○	
13 独立な試行の確率	3	独立な試行の意味を理解している。				○
14 反復試行の確率	3	反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。		○	○	
15 条件付き確率・練習問題	4	条件付き確率の定義、意味を理解している。				○
第2章 図形の性質						
第1節 平面図形						
1 角の二等分線と比	2	平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。			○	○
2 三角形の外心、内心、重心	3	三角形の3辺の垂直二等分線が1点で交わることの証明方法に関心をもつ。	○			
3 三角形の辺の比の定理	3	三角形の面積と線分の比の性質を用いて、面積比を求めることができる。			○	
研究 三角形の辺と角・練習問題	3	三角形や辺と角の大小関係や、三角形の存在条件を理解している。		○		○
4 円周角の定理	2	中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。				○
5 円に内接する四角形	2	円に内接する四角形の性質や条件を考察しようとする。		○		
6 円と接線	3	円と直線の位置関係に3つの場合があることを理解している。		○		○
7 接線と弦の作る角	3	接線と弦の作る角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。		○	○	
8 方べきの定理	3	方べきの定理の証明について関心をもつ。	○			
9 2つの円・練習問題	4	2円の位置関係に5つの場合があることを理解している。				○
第2節 空間図形						
12 空間における直線と平面	3	空間における2直線の位置関係に3つの場合があることや、2直線のなす角を理解し、それらの問題を処理できる。				○
13 多面体	3	5種類の正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。				○

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 数学的な見方や考え方 c 数学的な技能 d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	化学基礎	1	必修	2	

使用教科書	数研出版「改訂版 化学基礎」		使用副教材	数研出版「ゼミノート化学基礎」	
科目の目標	化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習の到達目標	1 科学的な事物・現象を学び、日常生活や社会との関わりを知る。 2 化学の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、科学的な自然観を持つ。 3 観察・実験等を通じ、科学的に考察する能力を身に付ける。				
学習の進め方	化学で扱う元素記号や化学反応など、科学的な思考の基礎となるルールについて学習する。練習問題や小テストを適宜利用し、応用力を育てる。				
学習の留意点	・用語や図を多く扱うので、しっかりノートをとること。 ・教科書の図や練習問題などを利用することがあるので、忘れ物をしないようにすること。 ・課題が出された場合は、期日までに必ず提出すること。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	・学習活動(質疑応答、討論、演習、実験・観察など)に積極的に参加し、自分の考えを深めようとしている。 ・提出物の作成(レポートや授業ノートなど)に意欲的に取り組み、自分の考えを表現しようとしている。 ・科学技術の在り方や社会との関係に関心を持ち、話し合いや探究活動に意欲的に参加しようとしている。	・実験結果や既知の知識から論理的な思考をし、考察することができている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べる事ができている。 ・実験から得られた事実、文献や Web などから得た情報、自分の考えをそれぞれはっきり区別して表現している。	・実験を安全に行っている。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できている。 ・データの取り方が適切である(とりこぼし、計測ミスなどが無い)。 ・実験方法やレポートの書き方が適切である。	・科学的な知識の活用力・応用力が身に付いている。 ・科学的な現象を論述できている。 ・実験レポートや小テスト等で、授業で学習した内容を正しく理解し、知識となって反映されている。
	比重	30%	20%	30%	20%
評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、及びプレゼンテーション、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
														前期		後期		
														中間	期末	中間	期末	
化学と人間生活	4																	
純物質と混合物	20																	
物質とその成分	27																	
物質の三態と熱運動	32																	
原子とその構造	38																	
イオン	46																	
周期表	49																	
イオン結合	56																	
分子と共有結合	61																	
分子間にはたらく力	73																	
共有結合結晶	78																	
金属結合	80																	
原子量・分子量・式量	98																	
物質質量	102																	
化学反応式と物質質量	121																	
酸・塩基	134																	
水の電離と水溶液の pH	142																	
中和反応	148																	
塩	157																	
酸化と還元	164																	
酸化剤と還元剤	171																	
金属の酸化還元反応	182																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・詳細の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
序章 化学と人間生活	3	1年間の学習目標を確認し、化学が人類の発展にどのように寄与してきたか、人間生活にどのように関わり、どこで我々が恩恵を受けているかを学ぶ。さらに身の周りの化学物質とどのようにつきあえばよいのかを学ぶ。	○	○			
1編 物質の構成と化学結合							
1章 物質の構成							
1 純物質と混合物	3	物質は純物質と混合物とに分類できること、混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解する。	○			○	実験1 混合物の分離
2 物質とその成分	3	物質は種々の元素から成り立っており、元素は元素記号で表されることを理解する。	○			○	
3 物質の三態と熱運動	3	物質には固体・液体・気体の3つの状態があり、相互の変化には熱の出入りによる分子の熱運動がもたれていることを理解する。絶対温度の定義も学ぶ。	○		○	○	
2章 物質の構成粒子							
1 原子とその構造	3	原子の構造を学び、原子の電子配置や価電子の意味を理解する。	○			○	
2 イオン	4	イオンの電子配置が希ガスと同じであることに気づき、化学式の表し方を学ぶ。また原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。	○		○		
3 周期表	3	価電子の数に注意しながら元素の性質と周期表の関係について学ぶ。また周期表上での元素の分類や同族元素の名称、周期表上における元素の陽性や陰性の傾向についても知る。	○	○		○	
3章 粒子の結合							
1 イオン結合	3	イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。		○		○	実験2 結合の特性
2 分子と共有結合	3	共有結合の仕組みや分配位結合について学び、それをもつ錯イオンについても理解する。	○			○	
3 分子間にはたらく力	2	共有結合では、電子がかたよることで、電氣的に正の部分と負の部分ができることを学ぶ。またその結果、分子全体として電氣的につり合う分子とつり合わない分子とが存在することを学ぶ。	○			○	
4 共有結合結晶	2	共有結合結晶について、性質が共有結合と大きく異なることを学ぶ。	○	○			
5 金属結合	2	金属の原子は金属結合することを学び、自由電子についても理解する。	○	○	○	○	
2編 物質の変化							
1章 物質質量と化学反応式							
1 原子量・分子量・式量	3	原子量や分子量、式量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。	○	○	○		
2 物質質量	4	物質質量の概念を知り、粒子の個数や質量、気体の体積との関係も理解する。また溶液の濃度についても学ぶ。		○		○	
3 化学反応式と物質質量	4	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学ぶ。	○	○	○		
2章 酸と塩基の反応							
1 酸・塩基	3	酸や塩基の性質を理解し、酸・塩基の反応には水素イオンが関係していることを理解する。酸や塩基の強弱についても学ぶ。		○		○	実験3 指示薬の作成 実験4 中和滴定
2 水の電離と水溶液のpH	3	水溶液の酸性や塩基性の程度をpHで表すことができることを理解する。			○	○	
3 中和反応	4	酸と塩基の中和について学び、滴定操作や滴定曲線と指示薬の関係も理解する。		○	○	○	
4 塩	2	塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。	○			○	
3章 酸化還元反応							
1 酸化と還元	3	電子の授受による酸化・還元の意味を理解する。また酸化数の変化から酸化・還元を指摘ができるようになる。	○	○		○	実験5 酸化剤と還元剤の反応
2 酸化剤と還元剤	4	酸化剤や還元剤のはたらきやその際の化学変化を化学反応式で表せるようになる。	○	○	○	○	
3 金属の酸化還元反応	3	金属が水溶液中でイオンとなることは酸化還元反応の一つであり、金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。	○			○	
4 酸化還元反応の利用	3	電池の基礎事項を学び、電池には一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	○	○		○	

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	体育	1	必修	2	

使用教科書	大修館書店「現代高等保健体育」		使用副教材		
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習の到達目標	現在及び将来の自己の状況に応じて体力の向上及び健康の保持増進を図るとともに、卒業後に少なくとも一つの運動が継続できるようにし、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を図る。				
学習の進め方	1 実技は校内の施設・用具を利用し授業を実施する。また、体育理論は集中実施方式をとる。 2 授業形態は、ホームルームを基本とし、男女別の授業展開である。 3 種目ごとにスキルテストを実施する。(体づくり運動、体育理論を除く)				
学習の留意点	1 実技が中心の科目のため、原則見学は認められない。 2 指定ジャージ・指定靴の着用ほか、運動に適した服装を心がけること。 3 初めて実施する種目や強度の高い運動については、健康・安全面に配慮し、取り組むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や自己実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
	比重	20%	20%	40%	20%
評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業に取り組む意欲や姿勢などを観察・学習ノート等で評価する。 ○思考・判断・表現・・・課題への取組や工夫、周囲との協力など、観察・学習ノート等で評価する。 ○技能・・・授業への取組やスキルテストで評価する。 ○知識・理解・・・学習した内容について、言ったり、書き出したりしているなど、観察・学習ノート等で評価する。				

単元(種目・領域)	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
													前期		後期			
													中間	期末	中間	期末		
体づくり運動																		
器械運動(男子)																		
器械運動(女子)																		
バレーボール(男子)																		
バレーボール(女子)																		
陸上競技																		
サッカー(男子)																		
ソフトボール(女子)																		
バスケットボール																		
体育理論																		
スキー																		
普通救命講習																		

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
体づくり運動	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 	○	○		○	新体カテストの実施
器械運動（男子）	8	<ul style="list-style-type: none"> ・回転系、巧技系の基本的な技の習得 ・発展技の習得 ・安定して行う ・協力して練習する ・演技、発表にむけた取組 	○	○	○	○	
器械運動（女子）		<ul style="list-style-type: none"> ・回転系、巧技系の基本的な技の習得 ・発展技の習得 ・安定して行う ・協力して練習する ・演技、発表にむけた取組 	○	○	○	○	
球技（ネット型） バレーボール	8	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 	○	○	○	○	
陸上競技	8	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走 ・走り高跳び ・中長距離走（1500m、800m） 	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ゴール型） サッカー（男子）	9	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ベースボール型） ソフトボール（女子）		<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ゴール型） バスケットボール	9	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 	○	○	○	○	
体育理論	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとって「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ倫理 	○	○		○	講義形式（パワーポイント）で実施。
スキー	12	<ul style="list-style-type: none"> ・パラレルターンへの移行 ・前傾姿勢、重心を意識した滑り ・健康・安全にスキーに親しむために ・スキルテスト 	○	○	○	○	三笠山スキー場にて実施
普通救命講習	3	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法の意義と原理 ・心肺蘇生法の手順 	○	○	○	○	外部講師による授業

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	保健	1	必修	1	入学年次より、2ヶ年にわたり履修

使用教科書	大修館書店「現代高等保健体育」	使用副教材	大修館書店「現代高等 保健体育ノート」
-------	-----------------	-------	---------------------

科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付ける。
-------	---

学習の到達目標	個人生活や社会生活における健康・安全の問題を認識するとともに、課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づき、自らの意志や行動の選択などが実践できるようになるための基礎を身に付ける。また、健康に関する興味・関心を広く持てる。
---------	--

学習の進め方	講義形式、ワークシート、グループディスカッション、ロールプレイング
--------	-----------------------------------

学習の留意点	1 科目「体育」との関連が深いため、つながりを意識ながら学習に臨むこと。 2 知識を習得し、理解するだけでなく、意見交流などを通じ、自らの考えを深めること。 3 考えたことを基に書く、話し合う、発表するなど、主体的に学習に取り組むこと。
--------	--

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	現代社会と健康について、健康を保持するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	現代社会と健康について、健康を保持するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	/	現代社会と健康について、健康を保持するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること、環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。
	比重	25%	25%	—	50%
評価方法	○関心・意欲・態度・・・学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 例) 資料を探す・見る・読む、話し合い・意見交換、ワークシート等の提出物など。 ○思考・判断・表現・・・学習した内容を基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 例) 比較・分析・評価などを行い、筋道を立てて説明している。 ○知識・理解・・・学習した内容について、理解したことを発言したり、記述したりしている。 例) 授業の中における発表や発言、定期考査など。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
															前期		後期	
															中間	期末	中間	期末
1 私たちの健康のすがた	6																	
2 健康のとらえ方	8																	
3 健康と意志決定・行動選択	10																	
4 健康に関する環境づくり	12																	
5 生活習慣病とその予防	16																	
6 食事と健康	18																	
7 運動と健康	20																	
8 休養・睡眠と健康	22																	
9 喫煙と健康	24																	
10 飲酒と健康	26																	
11 薬物乱用と健康	28																	
12 現代の感染症	32																	
13 感染症の予防	34																	
14 性感染症・エイズとその予防	36																	
15 欲求と適応機制	38																	
16 心身相関とストレス	40																	
17 ストレスへの対処	42																	
18 心の健康と自己実現	46																	
19 交通事故の現状と要因	48																	
20 交通社会における運転者の資質と責任	50																	
21 安全な交通社会づくり	52																	
22 応急手当の意義とその基本	56																	
23 心肺蘇生法	58																	
24 日常的な応急手当	60																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	
0 オリエンテーション	2	・オリエンテーション ・わが国における健康水準の向上等	○			
1 私たちの健康のすがた						
2 健康のとらえ方	1	・健康についての多様な考え方 ・健康の成り立ちとその要因			○	
3 健康と意志決定・行動選択	1	・意志決定・行動選択とそれに影響を与える要因 ・健康的な意志決定・行動選択を実現する工夫	○			グループディスカッション
4 健康に関する環境づくり	1	・健康づくりを支える環境 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくり			○	
5 生活習慣病とその予防	2	・生活習慣病とは ・生活習慣病の予防	○	○	○	グループディスカッション
6 食事と健康	1	・健康的な食生活の重要性と意義 ・健康的な食習慣の形成			○	
7 運動と健康	1	・健康から見た運動の意義 ・健康づくりのための運動習慣の形成			○	
8 休養・睡眠と健康	1	・健康から見た休養・睡眠の意義 ・健康からみたよりよい休養・睡眠のとりかた			○	
9 喫煙と健康	1	・喫煙の健康影響 ・依存性・喫煙開始の要因と依存性	○	○		ロールプレイング
10 飲酒と健康	1	・飲酒の健康影響 ・飲酒開始の要因と社会問題 ・飲酒への対策	○	○		ロールプレイング
11 薬物乱用と健康	2	・薬物乱用の健康影響 ・薬物乱用の防止と対策 ・薬物乱用開始の要因と社会問題	○	○	○	グループディスカッション
12 現代の感染症	1	・感染症とは ・新たに注目される感染症 ・再び問題となっている感染症			○	
13 感染症の予防	2	・感染症予防の原則 ・現代の感染症対策	○	○		グループディスカッション
前期期末考査	1	知識の確認等		○	○	ノート提出
14 性感染症・エイズとその予防	2	・性感染症・エイズ ・性感染症・エイズの予防		○	○	
15 欲求と適応機制	1	・欲求と脳の働き ・さまざまな欲求 ・欲求不満と適応機制			○	
16 心身相関とストレス	1	・心身相関のしくみとストレス ・ストレスの影響と心の健康			○	
17 ストレスへの対処	2	・原因への対処 ・とらえ方を変えることによる対処 ・信頼できる専門家への相談等	○	○	○	
18 心の健康と自己実現	1	・自己実現と心の健康との関係 ・自己実現の道すじと達成		○		
19 交通事故の現状と要因	1	・交通事故の現状 ・交通事故の要因	○		○	
20 交通社会における運転者の資質と責任	1	・安全な運転のための資質 ・交通事故の責任と補償			○	
21 安全な交通社会づくり	1	・法的な整備と施設・設備の充実 ・車の安全性の向上		○	○	グループディスカッション
22 応急手当の意義とその基本	2	・応急手当の意義 ・応急手当の手順	○		○	
23 心肺蘇生法	2	・心肺蘇生法の意義と原理 ・心肺蘇生法の手順	○		○	
24 日常的な応急手当	2	・けがの応急手当 ・熱中症の応急手当			○	
学年末考査	1	知識の整理等		○	○	ノート提出

評価規準： a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
芸術	音楽Ⅰ	1	必修	2	

使用教科書	教育芸術社「高校生の音楽1」	使用副教材	教育出版「ミュージックノート」 ドレミ楽譜「高校生のための新楽典ワーク」 教育出版「New Recorder library」		
科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化について理解を深める。				
学習の到達目標	1 歌唱や楽器演奏などによる表現活動及び鑑賞活動の幅広い学習を通して、音楽を愛好する態度を身に付け音楽に対する興味・関心を高める。 2 曲種に応じた発声や演奏法と表現上との関わりを理解し、表現を工夫する。 3 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して演奏・鑑賞することができる。				
学習の進め方	歌唱・器楽・音楽理論・鑑賞について基礎的な理解や発展的な内容に取り組む。また、習得した音楽の知識を基に、演奏技術の習得を目指す。				
学習の留意点	1 ペアワークやグループワーク等の表現活動や授業全般に積極的に取り組むこと。 2 楽曲に応じて実技試験を課します。				
評価規準	観点別	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫と知識理解	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	評価の観点	音楽活動を通して音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持つ。音楽活動を主体的に行おうとする。	歌唱・器楽それぞれの演奏技術・表現方法を工夫し、表現することができる。 楽典や楽曲についての理解を深めることができる	歌唱・器楽それぞれの演奏法の特徴を理解し、表現するための技能を習得する。	多様な音楽の構成要素を感じ取り、それらを感受しながら歴史的背景とともに音楽の理解を深め、鑑賞する。
	比重	20%	35%	30%	15%
	評価方法	○音楽への関心・意欲・態度・・・・・・・・・・授業態度・レポート・振り返りシート ○音楽表現の創意工夫と知識理解・・・・・・・・定期考査・実技試験 ○音楽表現の技能・・・・・・・・・・定期考査・実技試験 ○鑑賞の能力・・・・・・・・・・定期考査・鑑賞レポート			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
														前期		後期		
														中間	期末	中間	期末	
歌唱[校歌]	—																	
歌唱[日本の歌]	20																	
鑑賞[西洋音楽の鑑賞]	42																	
合唱[ふるさと、時の旅人]	117																	
楽典[高校生のための楽典ワーク]	—																	
合奏[クラッピングカルテット]	34																	
器楽[リコーダー]	—																	
歌唱[西洋の歌]	26																	
鑑賞[日本の伝統音楽について]	75																	
器楽[ギター]	—																	
鑑賞[アマデウス]	—																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
歌唱	10	・校歌 ・ひまわりの約束 ・翼をください ・世界に一つだけの花 ・この道 ・夏の思い出	○	○	○	○	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌う。 ・曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して歌う。
鑑賞	4	・音楽の聴き方 [バレエ音楽ポレロ] ・シューベルトの歌曲を聴こう [菩提樹]	○			○	・声や楽器の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って鑑賞する。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して鑑賞する。
合唱	6	「ふるさと」 「時の旅人」	○	○	○		・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌う。
楽典	8	[高校生のための新楽典ワーク]	○	○			・楽譜の読み方、音楽記号の意味について理解する。 ・音符の長さについて理解する。
合奏	4	[クラッピングカルテット]	○	○	○		・音符の長さを理解し、強弱なども意識する。 ・グループで協力してアンサンブルに取り組む。
器楽	14	・リコーダー New Recorder libraryより 「メヌエット」	○	○	○		・楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。 ・器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏する。
歌唱	8	・Santa Lucia ・Caro mio ben	○	○	○	○	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌う。 ・曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して歌う。
鑑賞	2	・日本の伝統音楽について ・日本の楽器 ・尺八楽「鹿の遠音」	○			○	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して鑑賞する。
器楽	10	・ギターの基礎奏法 ・コードについて学ぶ 「桜」 「桜坂」ほか	○	○	○		・楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。 ・器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏する。
鑑賞	4	「アマデウス」	○			○	・モーツァルトについての理解を深める。

a 音楽への関心・意欲・態度 b 音楽表現の創意工夫と音楽の知識・理解 c 音楽表現の技能 d 鑑賞の能力

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	1	必修	4	

使用教科書	教育出版「New ONE WORLD Communication I」	使用副教材	教育出版「New ONE WORLD Communication I Workbook」 桐原書店「データベース 3000 4th Edition」		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 英語で書かれたり話されたりした情報を適切に理解できる。 理解した情報を元に、自身の考えを書く、話す形で発表することができる。 				
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 英語の幅広い話題（言語や文化など）について、聞いたことや読んだことを理解できる。 英語を使って、広い視野に立って情報を発信できる。 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 				
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は音読やコミュニケーション活動に積極的に参加し、英語を使う機会を増やすこと。 復習では、本文を音読するとともに、新出単語を書けるように繰り返し学習すること。 文法事項については、家庭学習課題等で補充を行うので、確実に取り組むこと。 				
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた2展開のクラス編成で授業を実施します。考查ごとにクラスを移動する場合があります。 授業規律を守り、グループワーク等の表現活動に積極的に取り組むこと。 復習を怠らないこと。わからないことは質問し、必ず理解するまで諦めないこと。 英語は言語であり、コミュニケーションを図る手段であるため、その前提となる「聞くこと」「話すこと」について、繰り返し学習すること。 				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の技能	言語や文化の知識・理解
	評価の観点	コミュニケーション活動へ関心・積極性・主体性を持って参加しようとしている	話す・書くを通じて情報や考えを伝えることができる	聞く・読むを通じて情報や考えを理解できる	英語学習を通じて言語や文化的背景の知識を理解できる
	比重	25%	30%	25%	20%
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○関心・意欲・態度・・・コミュニケーション活動への参加態度、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語表現の能力・・・定期考查の成績、コミュニケーション活動の内容、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語理解の技能・・・定期考查の成績、提出物の提出頻度と内容 ○言語や文化の知識・理解・・・定期考查の成績、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考查				
														前期		後期		
														中間	期末	中間	期末	
Lesson1 English as a Global Language to 不定詞、5文型、時制	9																	
Lesson2 Bread Culture in Japan 現在完了形、比較、5文型	19																	
Lesson3 Why Do Cats Purr? 動名詞、SV0、分詞の後置修飾	31																	
Lesson4 The Power of Anime 現在完了形、過去完了形、最上級	41																	
Lesson5 Projects with a Difference It is ~ to do ... / 関係代名詞、SVC	53																	
Lesson6 We are the World 関係代名詞、SV0 to do ~、SV00	63																	
Lesson7 How to Cure a Cold 関係代名詞、SV0 do ~、SV00	75																	
Lesson8 The Ninth Symphony in December SV0C (分詞)、関係副詞	85																	
Lesson9 The Fosbury Flop 現在完了進行形、分詞構文、関係代名詞	99																	
Lesson10 Let's Change Our Way of Thinking SV00、仮定法過去、seem to do、形式主語	109																	
Reading Spring a la Carte	123																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
Lesson 1 English as a Global Language 基本的な文構造① (S+V, S+V+C, S+V+O) 時制 (現在形と過去形)、to 不定詞	13	・世界のさまざまな地域や場面で英語が使用されている実態と、英語を学ぶ意義を理解する。 ・該当する文法事項をはじめとする、中学校での既習事項について復習し、習得する。			○	○	単元内容に記載のない文法事項についても、中学校で既に学習したものについては併せて扱おう。
Lesson 2 Bread Culture in Japan 比較表現① (比較級, as ~ as ...)、受け身 基本的な文構造② (S+V+O+O, S+V+O+C)	13	・日本人の食生活にふれるとともに、世界や日本におけるパンの歴史について理解する。 ・該当する文法事項をはじめとする、中学校での既習事項について復習し、習得する。	○		○	○	単元で学習した文法事項を用いた文を滑らかに音読できるようにする。
Function in Use① What should we have for lunch?	1	意向の尋ね方、提案の仕方について学ぶ。		○		○	ペア/グループでのスキットを行う。
Grammar Focus① 基本的な文構造のまとめ	2	5 文型について復習を行い、独力で文構造を見抜けるようにする。			○	○	
Lesson 3 Why Do Cats Purr? 動名詞、S+V+O (=that 節)、 分詞の形容詞としての用法	12	・ネコの生態についてふれながら、ネコの持つさまざまな特徴について理解する。 ・読んだり調べたりした情報や考えを聴き手に適切に伝える。	○	○	○	○	ネコの特徴について調べ、友だちに伝える。
Lesson 4 The Power of Anime 現在完了形、過去完了形、 比較表現② (最上級)	12	・日本のアニメについてふれ、アニメの歴史や影響力について理解する。 ・現在完了形を用いた文を作成できるようになる。 ・比較表現を用いた文を作成できるようになる。	○	○	○	○	好きなアニメや人気のアニメについてペアワークで話し合う。
Function in Use② I'm looking for some manga in English.	1	質問の聞き返し方、確認の仕方を学ぶ。		○		○	
Grammar Focus② さまざまな時間表現	2	さまざまな時間表現の方法をまとめ直す。			○	○	
Lesson 5 Project with a Difference It is ~ (for ...) + to 不定詞、 関係代名詞 who (主格)、S+V+C (=that 節)	11	・さまざまなイベントについてふれながら、その成り立ちや考え方について理解する。 ・英語のリズムに慣れるとともに、紹介文の作成と発表を行う。	○		○	○	単元で学習した文法事項を用いた文を滑らかに音読できるようにするとともに、自分の知っているイベントについて英語で紹介する文を作成する。
Lesson 6 We Are the World 関係代名詞 which, that (主格)、 S+V+O+ to 不定詞、 S+V (+O)+O (=疑問詞節)	11	・苦しんでいる人々に対して、さまざまな方法で援助することができることを理解する。 ・文型に対して再度意識を向けるとともに、既習の文法事項を組み合わせることに慣れる。	○		○	○	学習した文法事項を用いた文章について、当該文法事項が意図するところを汲み取る形の音読ができるようにする。
Function in Use③ I'm here for sightseeing.	1	目的の伝え方について学び、用いることができるように学ぶ。		○		○	
Grammar Focus③ 比較表現のまとめ	2	比較表現についてまとめ、自分で活用できるように演習する。			○	○	
Lesson 7 How to Cure a Cold 関係代名詞 whom, which, that (目的格)、 S+V (+O)+O (=how など + to 不定詞)、 S+V+O+C (=原形不定詞)	11	・世界各国の風邪に対する民間療法を知り、異なる文化について理解する。 ・原形不定詞を用いた知覚動詞、使役動詞について学習し、自分で作成できるようにする。	○		○	○	
Lesson 8 The Ninth Symphony in December S+V+O+C (=現在分詞)、関係副詞 where、 関係副詞 when、関係副詞 why, how	13	・日本におけるベートーベン交響曲第九番の歴史について理解する。 ・読んだり調べたりした情報や考えをまとめて文を書いたり、発表したりする。		○	○	○	興味のある歴史的な事物について紹介する文を書き、クラスで発表する。
Function in Use④ The concert starts at 3o'clock.	1	電話をかけるとき、人を誘うときの表現が実際にできるように学ぶ。		○		○	
Grammar Focus④ 形容詞の働きをする句や節	2	形容詞の働きをする句や節をまとめ直す。			○	○	
Lesson 9 The Fosbury Flop 現在完了進行形、分詞構文 (現在分詞)、 関係代名詞 what	11	・走り高跳びの新しい歴史を作ったフォズベリーの話を読み、内容を理解する。 ・分詞構文の構造、意味を理解することができるようになる。 ・関係代名詞についての理解を深める。	○		○	○	
Lesson 10 Let's Change Our Way of Thinking S+V+O+O (=that 節)、仮定法過去、 seem+ to 不定詞、It is ~ that... (形式主語)	15	・地球の環境問題について考え、高校生に何ができるのかを考える。 ・学習した文法事項に基づいて、学んだ内容、調べた内容を簡単な英文でまとめる。	○	○	○	○	
Function in Use⑤ Can you tell me the way to the hotel?	1	道の尋ね方、教え方について用いることができるように学ぶ。	○	○			
Grammar Focus⑤ 名詞の働きをする句や節	2	名詞の働きをする句や節をまとめ直す。			○	○	
Reading Spring a la Carte	3	オー・ヘンリーのラブ・ストーリーを読んで、登場人物の意向を考える。	○			○	考査における評価項目には含めないものとする。

評価規準 : a 関心・意欲・態度 b 外国語表現の能力 c 外国語理解の技能 d 言語や文化の知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
家庭	家庭総合	1	必修	2	

使用教科書	実教出版 「家庭総合パートナーシップでつくる未来」	使用副教材	実教出版「生活学 Navi 資料+成分表 2017」 実教出版「家庭総合学習ノート」		
科目の目標	家庭や地域の衣生活に関する知識・技術を習得し、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。				
学習の到達目標	1 人の一生を生涯発達の視点で総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 2 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付ける。				
学習の進め方	講義、グループワーク、実習で授業を進める。長期休業中はホームプロジェクトを実施しレポートを作成する。休業明けの授業で発表を行う。				
学習の留意点	1 日頃から、自分や家族の衣・食・住生活や、社会の動きに関心を持ち、授業で学んだことを生活で実践するように心がけること。 2 実習は、危険を伴う場合があるので、事前の説明をよく聞き、班で協力し、安全に留意して真剣に臨むこと。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者の生活、それらと社会との関わり、衣食住について関心をもち、その充実・向上を目指して意欲的に取り組み組むとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を見だし、課題解決のため思考を深め、工夫・創造し、自分の考えをまとめ、判断できる。課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。	自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	自分や家族・家庭、地域の役割を理解し、それらの充実向上に向けて必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。衣食住、消費・環境など、家庭生活を営む上で必要な知識を身に付けている。
	比重	25%	25%	25%	25%
評価方法	○関心・意欲・態度・・・日々の授業や実習や長期休業課題に取り組む態度を評価する。 ○思考・判断・表現・・・日々の授業での発言、ワークシート、レポート、長期休業課題の記述で評価する。 ○技能・・・被服製作物、調理実習時の実技、ワークシート、レポートで評価する。 ○知識・理解・・・定期考査、日々の授業での発言で評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査				
														前期		後期		
															中間	期末	中間	期末
1編 人と関わって生きる	6																	
1章 自分らしい生き方と家族	6																	
2章 子どもとかかわる	30																	
3章 高齢者とかかわる	60																	
4章 社会とかかわる	74																	
2編 生活をつくる	82																	
1章 食生活をつくる	82																	
2章 衣生活をつくる	140																	
3章 住生活をつくる	180																	
3編 消費者として自立する	204																	
1章 消費行動を考える	206																	
2章 経済的に自立する	224																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
1編 第1章 自分らしい生き方と家族	10	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭総合を学ぶに当たって ・自分を見つめる ・自立した生き方、共に生きる人生 ・家族に関する法律 ・私たちの生活を支える労働と生活 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を客観的に振り返るキャリア教育と関連させ、これからの自分を考える。現代家族の特徴や機能について、歴史的・文化的・社会的変化と関連させて理解する。 ・家族の法律について理解する。 ・よりよい男女関係や家庭生活について考える。
2編 第2章 衣生活をつくる	25	<ul style="list-style-type: none"> ・人と衣生活の関わり ・衣服の機能 ・衣服の素材を見てみよう ・衣生活の管理 ・全ての人が快適な衣生活を 	○ ○	○ ○		○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服は何のために着るのか、被服は生活活動にどのように役立っているのかを考える。 ・健康で安全、快適な衣生活を送るため、賢く被服を選択し、衣服を取り扱うことができる。 ・基礎縫い学習後、調理実習で使用するエプロンを製作する。
1編 第3章 高齢者と関わる	15	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会に生きる私たちの暮らし ・高齢者を知る ・高齢者の自立のために私たちができること 	○ ○	○ ○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴を理解し、生活に関する課題の解決方法を考える。 ・高齢社会を支える社会的な制度・仕組みを理解し、高齢社会における地域社会の役割・社会の一員としての自分の役割を考える。
1編 第4章 社会と関わる	5	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合う暮らしとは ・私たちの社会福祉 ・地域社会の一員としての活動 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合う社会とは何かを主体的に考え、社会の一員としての自覚を持ち、自分たちの暮らす地域のために行動することができる。
2編 第3章 住生活をつくる	15	<ul style="list-style-type: none"> ・人と住まいの関わり ・住まいと住まいの文化 ・住まいを計画する ・健康的な住まい環境 ・安全な住まい環境 ・これからの住まいを考える 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能や役割を理解する。快適で安全な住環境について理解し、全ての人にとって住みやすい住環境作りや、環境に配慮した住生活について考える。

評価規準：a. 関心・意欲・態度 b. 思考・判断・表現 c. 技能 d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
情報	社会と情報	1	必修	2	

使用教科書	日本文教出版 「見てわかる社会と情報」		使用副教材		
科目の目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力と、効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。				
学習の到達目標	1 情報機器を適切に活用し、情報を収集、分析し問題を解決する力を身に付ける。 2 情報機器を活用したコミュニケーションや情報発信において、他者への配慮や責任をもつ態度を身に付ける。 3 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 4 コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みを理解し、情報社会を支えるシステムに関心をもつ。				
学習の進め方	授業形態は座学の授業と実習の授業を交互で行う。				
学習の留意点	1 座学と実技の授業を交互に行う。話を聞くときと作業をするときのメリハリをつけること。 2 座学の授業実施時には毎回小テストを行う。必ず復習を行うこと。 3 授業はプリントを使用して行うため、指定したファイルに綴じて保管すること。 4 提出物の提出期限は必ず守ること。				
評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	情報化が社会に及ぼす影響や課題について関心を持ち、情報社会の一員として主体的に参画していく態度を身に付けようとしている。	情報を科学的にとらえ、身近な問題の解決方法を考えるとともに、情報社会における自分自身の行動のあり方について、情報モラルの視点から、適切に判断し、表現することができる。	コミュニケーションや問題解決などの場面において、情報機器や情報通信ネットワークを効果的に活用する力を身に付けている。	コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みを理解するとともに、情報社会を生きるための基礎的な知識を習得している。
	比重	25%	25%	25%	25%
評価方法	○関心・意欲・態度・・・日々の授業へ取り組む態度を評価する。(提出物・持ち物・出席状況 等) ○思考・判断・表現・・・日々の授業での発言、定期考査、提出物の記述状況で評価する。 ○技能・・・10分間のうちのどのくらい文字が入力できるかの測定と実技の授業での進捗度で評価する。 ○知識・理解・・・小テスト、定期考査、日々の授業の発言で評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
1章 情報機器を使いこなそう																	
1節 情報機器の基本的な使い方	8																
2節 情報機器を利用するときの注意点	26																
2章 情報を整理して伝えよう																	
1節 問題解決の手順と方法	44																
2節 情報をわかりやすく伝える	60																
3章 情報社会の課題について考えよう																	
1節 情報化が社会に及ぼす影響と課題	78																
2節 情報セキュリティの確保	86																
3節 情報社会における法と個人の責任	94																
4章 情報社会のしくみを知ろう																	
1節 情報通信ネットワークとコミュニケーション	112																
2節 情報のデジタル化	120																
3節 情報通信のネットワークのしくみ	128																
4節 望ましい情報社会を築く	136																

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考 (到達目標・評価の観点・留意点など)
			a	b	c	d	
1章 情報機器を使いこなそう 1節 情報機器の基本的な使い方	8	・情報機器について知ろう ・コンピュータを使う前に ・文字を入力してみよう ・データを保存するときに ・文書処理ソフトウェアの使い方	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・情報機器の特徴と役割について理解することができる。 ・情報機器の基本操作を確認し、習得することができる。
1章 情報機器を使いこなそう 2節 情報機器を利用するときの注意点	8	・情報機器を使いこなそう ・自分の情報をむやみに出さない ・他人を傷つけないようにしよう ・他人が作ったものを勝手に使わない ・迷惑メールが届いたら ・インターネット上で買い物をするときは	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・コンピュータやインターネットを利用する際の注意点を理解することができる。 ・基本的な情報モラルやマナーを身に付ける。
2章 情報を整理して伝えよう 1節 問題解決の手順と方法	8	・問題の発見 ・情報を収集・整理する手段 ・表計算ソフトウェアの使い方 ・問題の解決に向けて	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・問題を解決する手段と方法を理解することができる。 ・表計算ソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する。
2章 情報を整理して伝えよう 2節 情報をわかりやすく伝える	10	・情報の表現・伝達の工夫 ・プレゼンテーションソフトウェアの使い方 ・発表と評価	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・情報を相手に効果的に伝えるための手順や方法を理解することができる。 ・プレゼンテーション用ソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する。
3章 情報社会の課題について考えよう 1節 情報化が社会に及ぼす影響	4	・情報化が社会に及ぼす影響 ・サイバー犯罪 ・情報化の課題		○ ○ ○		○ ○ ○	・情報化が及ぼす影響を理解する。 ・望ましい情報社会のあり方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解することができる。
3章 情報社会の課題について考えよう 2節 情報セキュリティの確保	4	・個人認証とアクセス制御 ・暗号化 ・情報セキュリティを高めるための方法 ・情報セキュリティをより高めるために	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・情報セキュリティを高めるためのさまざまな方法を理解する。 ・情報セキュリティを高めるために必要な利用者側の注意事項を理解する。
3章 情報社会の課題について考えよう 3節 情報セキュリティの確保	8	・公開され、流通するさまざまな情報 ・知的財産権 ・個人情報の保護	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	・情報社会には大量の情報が流通していることを理解する。 ・知的財産を保護することの必要性とそのため法律、個人の責任を理解する。
4章 情報社会のしくみを知ろう 1節 情報通信ネットワークとコミュニケーション	4	・コミュニケーションの手段と発達 ・情報とメディアの特徴 ・情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション	○	○ ○	○	○ ○	・コミュニケーション手段の発達や情報の特徴、メディアの意味を理解することができる。 ・情報通信ネットワークの特性を理解し、効果的なコミュニケーションの方法を習得する。
4章 情報社会のしくみを知ろう 2節 情報のデジタル化	6	・デジタルデータの特徴 ・情報のデジタル化のしくみ	○	○ ○	○	○ ○	・情報のデジタル化についての基礎的なしくみを理解する。 ・デジタルデータの特徴を理解する。
4章 情報社会のしくみを知ろう 3節 情報通信ネットワークのしくみ	4	・コンピュータネットワーク ・インターネット上のサービス ・ネットワークでデータを送るしくみ		○ ○ ○		○ ○ ○	・情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解する。
4章 情報社会のしくみを知ろう 4節 望ましい情報社会を築く	6	・社会における情報システム ・情報システムと人間	○ ○	○ ○	○ ○		・情報システムの種類や特徴を理解し、社会生活での役割と影響を理解する。 ・人間が利用しやすい情報システムの在り方を考える。

評估標準：a 關心・意欲・態度 b 思考・判斷・表現 c 技能 d 知識・理解